

新作かき氷を発表する奥野亮太郎さん（左）と西奈槻さん。いずれも奈良市餅飯殿町の絵図屋



Ｚ世代狙え おしゃれかき氷

「絵図屋」×「やるかやらんか」コラボ



食べ歩きを想定して作られた「MOTTIE氷」

かき氷が新たな奈良の名物となる中、10〜20代の「Ｚ世代」をターゲットにしたかき氷が発売された。近畿大農学部（きんきだいのうがくぶ）の学生らが在学中に起業した会社と、奈良市・もちいどのセンター

街の土産物店「絵図屋」がコラボした。

かき氷は、ミルクティー味のシロップと泡状にしたヨーグルトをかけ、クッキーをトッピングしている。フルーツを使わないことで価格を500円（税込み）に抑えた。SNSに投稿してもらえるよう、おしゃれな紙の容器にこだわり、テイクアウトで楽しんでほしいと「MOTTIE氷」と名付けた。

絵図屋では15年ほど前からかき氷を販売してきたが、競争が激化。運営する印刷会社「明新社」の乾昌弘社長が「Ｚ世代向けの商

品を開発できないか」と考え、全員がＺ世代の会社「やるかやらんか」の西奈槻社長（23）に提案した。

同社は、同市内でラーメン店を経営する。創業時からメンバーでこの店で働く奥野亮太郎さん（22）が開発担当となり、定休日に打ち合わせを重ねて考えた。

「市内には予約が必要で値段も高い高級かき氷もあるが、食後にちよつとデザートを食べたいなという人にぴったりです」と奥野さん。10月末まで販売予定。問い合わせは絵図屋（0742・23・3131）へ。

（佐藤道隆）